

資本主義は社会主義に必ず変わる

『空想より科学へ社会主義の発展』に学ぶ

第3回 東京ブロック

フランス大革命の意義

はじめに

ベルリン大学の私講師

デューリング博士への批判

司会 II いよいよ今号から、テキスト

(岩波文庫 エンゲルス著 大内兵衛

訳) 学習に入ります。エンゲルスが何を訴えたかったのか、私たちが何をどのようにまなぶか、全体像をまず掴みたいと思います。

それでは、『空想より科学へ』はいつ頃、どのような背景があり、私たち労働者へエンゲルスは何を訴えているか、簡潔に述べてください。

H II の小冊子は、もともとは『反デューリング論』(マルクシズム全分野にわたる総括的な膨大な解説書)の一部分を取り上げた内容です。それはマルクス・エンゲルスが生きていた時代のドイツの社会主義政党が勢力を伸ばした時期でした。ドイツ社会党の二派、ラサール派とアイゼナハ派が合同し、党の勢力が増大し、敵に対し全勢力を傾ける能力を獲得した時期です。しかし、突如、修正主義者が出現します。

ときは1875年。ベルリン大学の私講師であったデューリング博士の誤った理論がこのドイツ社会党に多大な影響を及ぼし、自分のセクトをつくり別個の党の核にしようとしたのでした。この10年前、1864年に第一インターナショナル(ヨーロッパの労働者、社会主義者が創設した世界初の国際政治結社)が結成されましたが、ドイツの社会主義はまだ生まればかりで、このデューリングの誤った思想に影響され始めたのです。そこで、1878年、エンゲルスは『反デューリング論』を発行しました。



この時、マルクスは『資本論』をほぼ完了し、完成させたマルクシズム、その世界観の全貌を、何らかの形において公表することはエンゲルスの任務であり、おしやべりのデューリングを利用して、彼の社会主義の理論をドイツ労働者の前に提示しました。

しかし、忙しい労働者には何分にも大きすぎたし、むずかしくすぎました。そこで、いちばん重要な部分だけを分

離しまとめました。その中身はマルクシズムの結論で、言い換えれば「科学的社会主義とは何ぞや」という大問題に答えています。その意味で『空想より科学へー社会主義の発展』と、パンフレットの名前が付けられた、と言われています。

SII 『空想より科学へー社会主義の発展』という表題には、資本主義は将来必ず社会主義に代わるという含み

があることですね。
 ドイル語版を翻訳し岩波文庫で発刊した大内兵衛氏は、第一章は「空想的社会主義」、第二章は「弁証法的唯物論」、第三章は「資本主義の発展」と、二章にそれぞれ表題をつけてくれました。

本書はこの順序に従って、すなわち人間の思想の歴史の中で、新しい理想としての社会主義が、(一) どうして生まれたか、(二) それがどういうわけで現実の要求なのか、そして(三) 将来それはどうなるのか、その三つの話を整然と順序を追って何人にもわかるようにこのパンフレットは説明している、と教えています。

**資本主義は必ず
社会主義へ変わる**

司会II ありがとうございます。
 皆さんわかりましたか。
 MII エンゲルスが私たち労働者に訴えたかったのは、歴史の発展法則として資本主義は必ず社会主義に代わると提起していることは、大内兵衛氏の訳文を読むと理解できます。
 しかし、先日、Hさんからこの講座に副題を付けたいと相談がありました。

Hさんは「資本主義は必ず社会主義に代わる」と大内さんの訳文通りに提案されました。

私は違うと思います。

司会II それはどういうことですか。

MII 歴史の発展法則では、資本主義は社会主義に代わりません。だが、資本主義は自動崩壊せず、その変革の担い手は労働者階級―私たちである―と学びます。だから「変革する」という意味を込めて「必ず変わる」とした方が、思いが伝わると思います。

司会II 皆さんはどう思いますか。

SIII 大事なものは、私たちが何をどう学び、どう活かしていくかです。Mさんの言う通り、私たちが変革の担い手であると自覚できる、成長できるような学習会にしたいですね。

司会II 1年間の学習会で皆さんの成長が楽しみです。では、Mさんの提起を取り入れ、副題は「資本主義は必ず社会主義に変わる」とします。

いよいよ今月から3カ月かけて、第一章「空想的社会主義」の項を学びます。担当の西部協から、大掴みで何を学ぶか提起してください。

FKII 3月号では、中世ヨーロッパの情勢から啓蒙思想がなぜ出てきたか、フランス大革命の意義を。4月号は、マルクスとエンゲルスは、ことにフリーエ、サン・シモン、オーウエンの三大空想的社会主義者から何を学んだか、空想的社会主義の誤り。5月号は、社会発展、ことに資本主義社会から社会主義社会への発展の必然性が、二つの発見（唯物史観と剰余価値による資本主義的生産の秘密の暴露）によって明瞭にされました。

中世ヨーロッパの

啓蒙思想から始まる

司会II それでは、中世ヨーロッパで、なぜ、啓蒙思想が出てきたか歴史的背

景を説明してください。

FKII 中世のヨーロッパでは、キリスト教（カトリック）が政治・経済、社会、文化を支配していました。法王（宗教的権威）は最大の権力者で、国王（世俗的権力）も支配しました。

1337〜1453年はイギリス王権力とフランス王権力が「100年戦争」を展開した時代。その費用を都市商工民と農民に重税を課した。不満と苦しさは爆発し、「ワット・タイラーの乱」が起きた。教会領主（主教と僧院長）は農奴制を頑固に守り抜こうとしていたため、農民たちの不満は教会にも向かったのです。

この時、ジョン・ボールという名の民衆説法者が「土地は万人のものであり、万人は平等でなければならぬ」と訴え、この思想が広まった。彼は修道院から広大な領地を取り上げ、全ての農民に分配せよと主張した。一切の財産が共有となり、農奴も貴族もいな

◆みんなの学習講座

くなり、万人が平等となったとき、イギリスは住みよい社会になると主張した。

TKII 宗教改革運動を本当に支えたのは、法王、王権、封建領主たちの搾取と収奪に恨みを持つ農奴たちであった。その優れた指導者がドイツのトマス・ミュンツァー（1489年頃～1525年）であった。

過酷な搾取と収奪にあえぐ農民の利益を代表したミュンツァーは、搾取者もなければ被搾取者もなく、万人は平等で、財産は人民全体のものであるべきだと考えたその立場から、**法王権**、**王権**、**封建領主**など、一切の封建権力を打倒すべきだと主張した。

このミュンツァーの思想と運動を支えたのは、封建権力と対抗し始めた一部の都市ブルジョアジーと圧倒的多数の農民、都市貧民、職人、鉱山労働者たちでした。

TGII 当時の社会制度、政治形態に痛

烈な批判を加えた社会思想家でした。彼らは、自由・平等・友愛（博愛）の思想を主張して、絶対王政、カトリック教を攻撃したのです。

啓蒙主義者たちは、「外的権威なるものを一切認めず」、「理性」を「唯一の尺度」として、宗教、自然観、社会、国家制度を批判しました。

GOII 日本にも啓蒙主義者はいましたか。

FKII 日本人でいえば、福沢諭吉の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」というのが啓蒙思想ですが、これは『学問のすすめ』の一部であり、全文を読むと啓蒙主義者とは言えがたいと思います。

日本は、江戸幕府（1603～1867）時代は、鎖国で諸外国との貿易・交易がなかったため、文化や思想的潮流の遅れがあったと思います。

SAII 啓蒙思想・啓蒙主義とは、階級・階層がはっきり分かれていた絶対

王政の時代に、国王も、貴族も、農民も、一人の人間としては同じだということ考え方ですか。

TGII 皆、自由であり、平等だ、とした思想だからそうだと思います。でも、当時としては急進的な考え方であったと思います。

フランス革命はブルジョア革命

司会II フランス革命（1789～

99）の特徴を説明してください。

TGII 当時のフランスは、「絶対王政」です。この社会制度、政治形態に痛烈な批判を加えた社会思想家でした。彼らは、自由・平等・友愛（博愛）の思想を主張して、絶対王政、カトリック教を攻撃したのです。

啓蒙主義者たちは、「外的権威なるものを一切認めず」、「理性」を「唯一の尺度」として、宗教、自然観、社会

国家制度を批判しました。彼らは、フランス絶対主義国家の変革を求めたのです。

TKII啓蒙思想とその運動は、フランスで最も大きく発展した。啓蒙思想に導かれたフランス革命によって「理想の王国」が始まったが、それは実は理想化されたブルジョアジーの王国に他ならなかった。その意味では、フランス革命はブルジョア革命であったという事です。

UIIももう少しわかりやすく説明してください。

FKII「理想の王国」を求めて、国王や封建貴族に対し、ブルジョアジーは芽生えてきていた賃労働や農奴らと共に闘い、ブルジョア民主主義的共和国を実現させました。

だが、資本主義は賃労働なしには存在することができず、中世のギルド(同業組合)の親方が近代のブルジョアに発展するに依りて、ギルドの雇

い職人やギルド外の日雇労働者はプロレタリアに発展したのです。

TKII人類の「自由・平等・友愛(博愛)」を掲げ、「理想の王国」を求めて闘ってきたが、その結果に生まれたのがブルジョア民主主義であり、資本主義社会であり、ブルジョア革命であったということ事です。

司会II理解できたでしょうか、他に質問がありますか。

SKII本筋からずれるようですが、理性に訴えるというと、今日の日本国の中で、「人間革命」を唱えている宗教団体があるが、これも同様に捉えてよいのでしょうか。

MII現実的な経済基盤を抜きに、観念的に人間個々の理性に訴えるという意味では同様と思います。

しかし、中世の絶対王政時代に、自由と平等を掲げて、理想的な社会状態のユートピア(空想的)・理想の王国を求めて闘いを推し進めた人たちとは全

く違います。社会を変える革命の思想ではありません。

司会IIフランス革命をどのように捉えるべきか、もう一度、FKIIさんに整理してもらいましょう。

FKII1789年7月14日のバスティーユ牢獄の襲撃をキッカケとして、農民騒擾や小生産者の暴動は全国に広がりました。いわゆるフランス革命の開始です。

1799年11月、ナポレオンはクーデターによって執政官内閣を倒し、政権を掌握します。いわゆる「ブリュメール(霧月)18日のクーデター」です。そして国民投票によって皇帝の位につき、こうして、フランス革命は終息し、フランスのブルジョア的社會体制は、一応安定化するに至ります。

フランス革命はいうまでもなくブルジョア革命であり、労働者や農民もブルジョアジーとともに封建的支配階級に対して闘いましたが、この革命は私



フランス革命、バ스티ーユ牢獄の襲撃

有財産制度に手を触れたわけではありません。

18世紀のフランス啓蒙思想から説き起こし、啓蒙思想家によって理性の

革命とされたフランス革命がもたらした理性の王国が、実はブルジョアジーの王国であったということ。

司会 日本日はありがとうございました。

今回は、フランス革命後に現れた三人の偉大な空想家について学習します。ブルジョア社会の発生・発展の過程で、「理想社会」を追い求めた内容や、なぜ「空想的社会主義」となったか紐解きます。

先月の2月号で、「なぜ、キューバ共和国やベネズエラ・ボリバル共和国の話が急に出てくるのか」と、読者からご指摘がありました。再度、東京編集部の方を追記します。

1990年代初頭に、ソ連・東欧諸国の社会主義国は崩壊し、社会主義の優位性や確信が揺らぎ始めてきました。だからこそ、21世紀の今日、社会主義建設に着実に前進している、キューバ共和国やベネズエラ・ボリバル共和国の事実を取らし、読者の皆さんと共に学習しようと企画し、2月号に載せました。平和革命を実践しているベネズエラに今、国民主権を脅かす攻撃が強まっています。アメリカをはじめ英仏独がマドURO大統領退陣を迫る中、ベネズエラの今を知る内容として紹介しました。